



第六十四号

# 会報

# 太陽の会

## 新春の「挨拶」

昨年は宗教法人太陽の会に格別なご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

新しい年を迎え世間が祝賀気分となっている時などは、昨年中に辛い今生でのお別れをされたご遺族はなかなかそのよ  
うな気分とはいかないかもしれません。  
人生は、「愛別離苦」愛するものといず  
れは別れないといけないというような苦  
しみがあります。今生での別れは、辛い  
ものです。気持ちを安らかに過ごしてい  
ただく為にも是非、太陽の会にお参りい  
ただきまして、本年も良きご縁が続きま  
すように手を合わせていただき、阿弥陀  
さまの光明の中共に歩ませていただきたく  
思います。本年もどうぞ宜しくお願い  
致します。

## もちつき大会

昨年の12月2日(土)に福山引野町の太陽の会で毎年恒例となった「もちつき大会」が行われました。当日は天候にも恵まれて多くのお客様様に  
ご来場いただきました。

### 「もちつき大会」

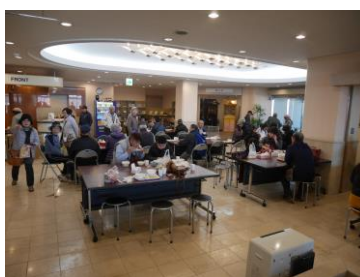
当日用意されたのは、つき立てのもちやぜんざい、きなこ餅に豚汁等でお集まりいただいたお客様に大変喜んでいただきました。

年末年始には、スーパーなどの店頭にお正月用のお餅が並び簡単に買えますが、かまどに薪をくべ、もち米を蒸してそれ



を集まった方々と一緒に餅をつくのは現代では、大変貴重な経験となります。

祝い事に餅をつく歴史は古くから続く行事です。『源氏物語』にも鏡餅が書かれていることから平安時代には少なくとも存在していました。今でも地域によっては家の建て替え、結納、結婚式や子供の1歳の誕生日に一升餅を用意して願をかけ背をわせたりします。餅は縁起物として多くの方に愛されています。



## 極楽浄土

浄土門の教えが広がり地獄は、閑散と  
しているという笑い話があるように極楽  
浄土は、たくさんの人であふれているの  
かもしれない。日本では、浄土門の教  
えは鎌倉時代に広がりました。自ら修行  
し悟りを開くことを目的とした聖道門に  
対し、浄土門とはこの世で悟りを開くこ  
とは大変難しいので、阿弥陀仏の本願力  
によって浄土に生まれ、その極楽浄土で  
仏になる為の悟りを開く実践をいいます。  
一般的に極楽浄土とは、休日にゆったり  
とした時間を過ごし、温泉に入ったとき  
思わず出てしまうような「極楽、極楽。」  
とは、少し違います。「極、楽に仏にな  
ることが出来る場所」を言います。今生  
で修行を積んで仏になれる可能性は、と  
ても低いので今生では、阿弥陀仏の力を  
借りて、まずは極楽浄土を目指そうとい  
う教えが浄土門なのです。

極楽浄土に行つてまで修行しないとい  
けないの。それじゃまた来世で頑張れば  
良いと思われるかもしれませんが、人間

として生まれることのできる可能性を仏  
教では、「盲亀浮木もうきかぼく」という喩えでいい

ます。これは、大海の底に住む盲目の亀  
が、百年に一度海面に浮きあがった時、  
たまたまそこに漂う  
浮き木に開いている  
穴に頭がすっぽり入  
る確率、そのくらい  
稀な事だという人間  
に生まれて仏教にあ  
える可能性の喩えで  
す。

『仏説阿弥陀経』に  
は、極楽浄土の様子  
が説かれています。



樹木や華池、建物も金色に輝き衣食住に  
は困らず、暑からず寒からず気候は常に  
良く住み心地の良い場所です、聞こえてく  
る音声は、常に妙法を説くがごとくこの  
世界には一切の苦がなく、ただ楽のみが  
ある。

日々の暮らしの中で、尊き仏教の教え  
に励み臨終の夕べには、極楽浄土に往生  
できることを祈念してやみません。

## 仏教由来の言葉 演説

選挙といえは演説です。全国各地で連  
日、数多くの選挙演説が行われます。  
仏教では、教えを演べて説くことを演説  
といえます。演説は仏教の諸典に登場し  
ます。

例えば「世尊、我等を哀愍して演説し  
給へ」(『華嚴経』)、「仏、一音を以て  
法を演説したもうに」(『維摩経』)、「世  
尊、法を演説し」(『法華経』)、「一切  
の經典を宣暢し演説す」(『無量寿経』)  
という具合です。

いずれも、お釈迦様が真理や道理を、  
人々に説きあかしているのです。そこか  
ら、多くの人々の前で、自分の主義主張  
や意見を述べることをいうようになった  
ようで、街頭演説、応援演説など、すべ  
てこの意味です。

また、講義し演説することを、講演と  
もいい、これもまた日常でよく使われる  
言葉です。

演説の意味をよく知っていただき真実  
を説きあかしましょう。

## 教えてお坊さん

▽お墓について

「お墓の下に、亡くなった方はいないんですか」このような質問があります。亡くなられた人がこの世に最後に残した物が遺骨です。それも私たちのように、遺体を火葬や土葬にする習慣がある場合のことで、場合によつ

ては遺骨が残らない場合もあります。お釈迦さまの故事による

とお釈迦さまが亡くなられた後は、火葬が行われました。インドのクシナガラには、今

もその遺跡が茶毘塚として残っています。その遺骨は、お釈迦さまを慕う人びとの願いに応じて、八つの地方に分骨されたと伝えられています。インドの仏教徒がその仏舎利を中心に仏塔を建てたのがお墓の始まりと言われています。



親鸞聖人も九十年の生涯を終えられるにあたり、お墓などを建ててほしいとは思っておられなかったようですが、残された者の気持ちからその遺骨は大谷の廟堂に安置され、多くの人々が生前を偲んでいます。

このようにお墓とは、その人を偲ぶ手だてであります。その下に故人が眠っているというような考えは、仏教的ではないかもしれません。

浄土真宗では、「往生めでたし」というのが親鸞聖人のお気持ちであったことが残されたお手紙から伺えます。またご自身も、「浄土にてかならず待ちまいらせ候うべし」とおっしゃられています。墓標に「俱会一処」ともに一つの処で会うと刻まれることもめずらしくあります。お墓では静かに手を合わせ「今生での命を全うして、いつかお浄土でまたお会いしましょう」という気持ちでお参りして頂けたら幸いです。

合掌

## 七草粥

七草粥は、人日じんじつの節句である1月7日に7種の野草が入った粥を食べる風習を言います。古くから日本では、若菜摘みといって、年の初めに雪の間から芽を出した草を摘む風習があり、これが七草の原点とされています。また、中国には人日に7種類の野菜を入れたとろみのある汁物を食べて無病を祈る習慣がありました。



現在では、春の七草として「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」が挙げられます。これは、一三〇〇年代後半に書かれた『源氏物語』の注釈書が初見とされています。江戸時代には武士や庶民に定着し、幕府では將軍をはじめ全ての武士が七草粥を食べる儀礼を行っていたようです。今では、お正月の食べ過ぎた胃を休ませる目的も一つの意味になっています。

## これで安心！終活を今日から始める方法

皆さまこんにちは。特定非営利活動法人エンディングノート普及協会の理事長の赤川なおみです。新年あけましておめでとございます。早いもので会報に寄稿させていただいて1年が経ちました。皆様少しずつでも終活は進んでおられますか。

さて、昨年の7月には「不動産の相続その一」をお伝えしました。今回は、その続きをお伝えします。

### ○不動産の相続 その二

不動産を何人で分割しますか？

家や土地はもちろん「相続財産」です。ではどうやってわけますか。お子さんが一人つ子なら最終的にはそのお子さんに全て相続されます。お子さんが二人以上ならどうやってわけますか。多くの方は「家に住んでくれる子のものでしよう」と言われます。預貯金をその他の子供に分配する。しかし、相続財産は全ての財産が対象です。預貯金はもちろん、家や土地の評価額も含まれます。そうすると、相続人の誰かが

家に住んでいてもその家や土地も均等に分割するというのが今の法律で定められていることなのです。しかし、

家や土地は簡単には分割できません。家に住む相続人が家や土地の

相続分に相当するお金を他の相続人に支払うこととなります。「でも、そんなお金どこから？」という場合もあるはずですよ。それでも他の相続人(兄弟)が主張すれば借金をしてでも払わなければなりません。そうならない為には・・・

### ○終活始めの第一歩

今回の初めの第一歩は「相続人が2人以上の場合は遺言書を書く」です。とにかく「我が家は大丈夫」ではなく「話し合える時に遺言書を書く」「これを怠ると、相続でもめることになってしまいます。わからないことがある方、ご自身に必要な終活を見極めたい方は、終活相談会をご活用ください。



## 浄土真宗 太陽の会 平成三十年行事予定

- 本山納骨堂・樹木葬合同追悼法要  
開催日 1月16日(火) 10時より
- 春季彼岸会及び合同追悼法要  
開催日 3月21日(水) 10時より
- 花まつり(※法要はありません)  
開催日 4月8日(日) 終日
- 親鸞聖人降誕会及び合同追悼法要  
開催日 5月22日(火) 10時より
- 本山及び三原太陽霊園合同追悼法要  
開催日 7月17日(土) 11時より
- 盂蘭盆会  
開催日 8月13日(月) 10時より
- 秋季彼岸会及び合同追悼法要  
開催日 9月22日(土) 10時より
- 本山及び西太陽霊園納骨合同追悼法要  
開催日 10月16日(火) 11時より
- 宗祖親鸞聖人御正忌報恩講法要  
開催日 11月16日(金) 11時より

